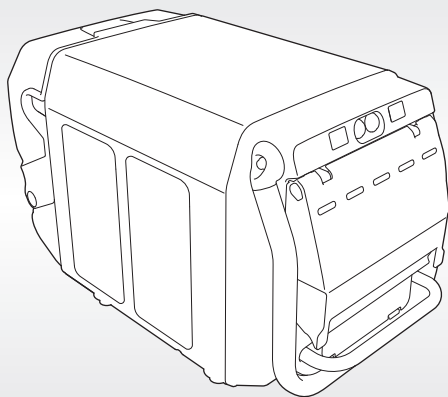


# HONDA

## 可搬型外部給電器 Honda Power Exporter e: 6000 EE60i 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Service & Support



# Honda Power Exporter e: 6000をお買いあげいただき 誠にありがとうございます。

本機についてのお問い合わせ・ご相談は、販売元へご連絡ください。

---

## 取扱説明書について

この取扱説明書は

- 本機をご使用の際は、必ず携帯してください。
  - Honda Power Exporter e: 6000を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒に  
お渡しください。
  - 紛失や損傷したときは、販売元にご注文ください。
- 

本機は、一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン（電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC版 第2.1 版）に適合しています。

他社製の給電対象車両とも接続・通信の互換性はありますが、供給できる電力、給電可能時間、その他機能については、車の仕様により異なります。

他社製の車両との接続に関しては、本機、ならびに各車両の取扱説明書をご確認ください。

---

## はじめに

ご使用になる前に、本書をよくお読みください。

本書に掲載された製品のイラストは、実際の製品と一部異なる場合があります。

## 目次

1. 安全に関する重要事項 .....	2
安全に関する表示について .....	2
確認事項 .....	3
安全ラベル .....	4
2. 各部の名称 .....	5
3. 仕様 .....	9
外部給電とは .....	9
給電状態の確認 .....	11
4. 運搬 .....	13
本機の運搬 .....	13
5. 各部の操作 .....	15
外部給電のしかた .....	15
停止のしかた .....	20
6. お手入れと保管 .....	22
7. 困ったときは .....	23
8. 主要諸元 .....	30

# 1. 安全に関する重要事項

---

## 安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。

これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

### 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

### 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

### 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

## その他の表示

### NOTICE

指示に従わないと、製品やその他の物が損傷する可能性があるもの

本機をご使用になる前に、本書をよくお読みください。製品の取り扱い方法をよく理解して、正しく取り扱ってください。

本機の点検・修理については、販売元にご相談ください。

## 確認事項

給電を始める前に下記の項目を確認してください。

### ⚠ 警告

**以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。**

- ・ 落雷のおそれがあるときは本機を使用しない
- ・ 雨の中や水のかかる場所で、本機を使用しない
- ・ 濡れた手で本機を使用しない
- ・ 給電コネクタや給電ケーブルが破損している場合は本機を使用しない

**損傷や改造された本機を使用することは、感電や火災の原因となり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。**

決して分解や改造をしないでください。もし、本機に損傷があるときは、使用を中止し、販売元にご相談ください。

**電気事業者からの電気配線や屋内配線には接続しない。**

本機や接続されている電気機器が故障したり、火災あるいは人身事故の原因になりません。

適切な指示、説明なしでは本機を使用しないでください。また、お子様には操作させないでください。

事故防止のため、使用前に本書を読み、理解して正しく扱うこと。

使用中に給電コネクタが外せなくなった際は、解除手順を参照する。

→ 給電コネクタの強制ロック解除 (P.27)

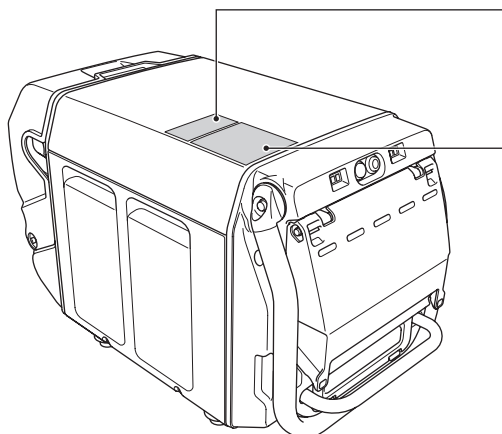
### ■ 確認項目


- ・ 給電コネクタ、給電ケーブルが破損していないか？
  - 破損している場合は、販売元にご相談ください。
- ・ 給電コネクタに異物が入っていないか？
  - 給電コネクタに異物が入っているときは、販売元にご相談ください。
- ・ 給電コネクタや給電ケーブルが水で濡れていないか？
  - 水の近くや濡れた手で本機の使用をしないでください。
- ・ 給電コネクタは直接車両に接続されているか？
  - 延長コード等は使用しないでください。





## 安全ラベル

本機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

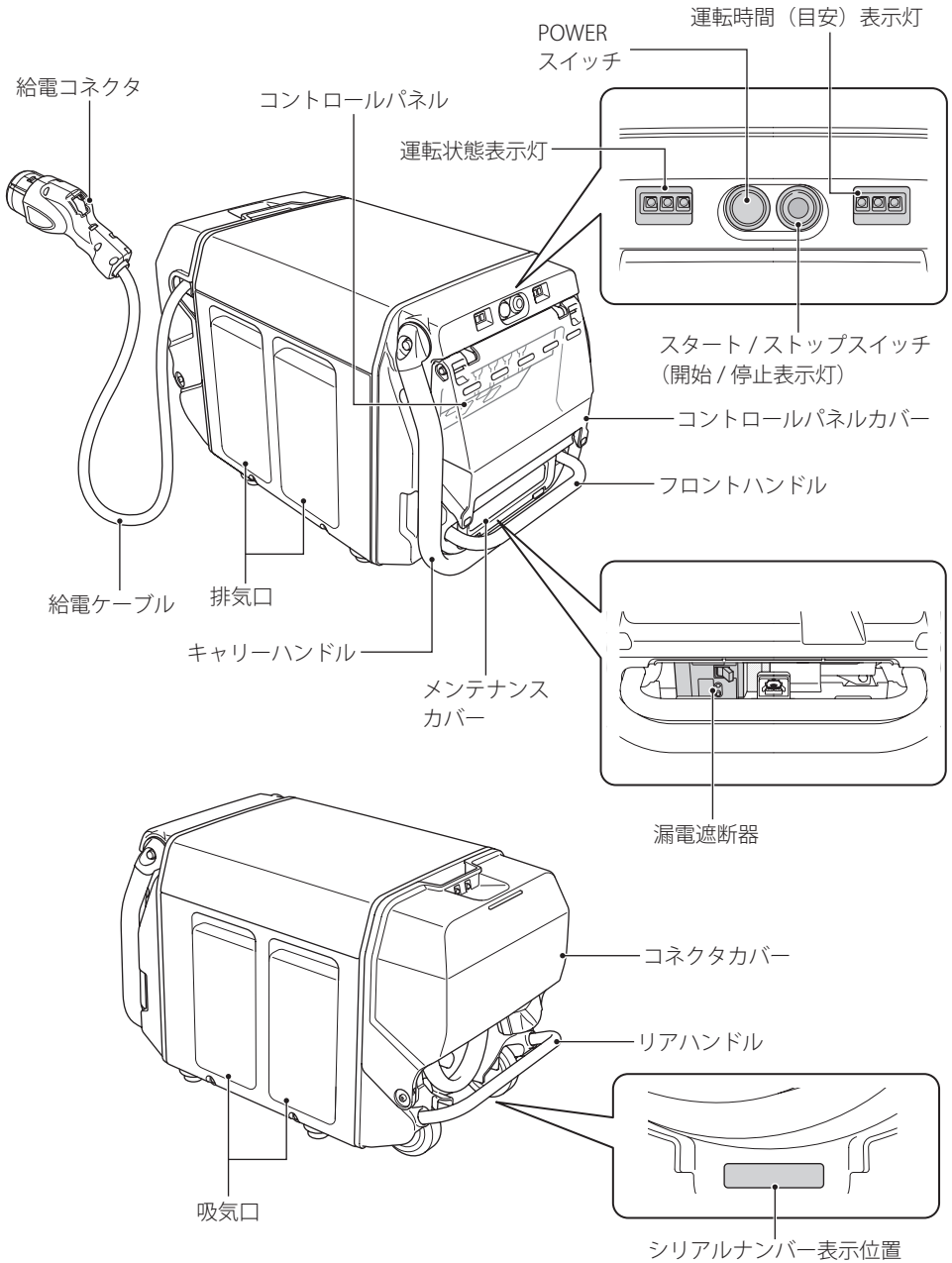
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、販売元にご相談ください。



<b>⚠ 注意</b>	
	<p>ペースメーカー、ICDをお使いの方へ</p> <p>給電中は本機には近づかないで下さい。 操作する必要がある場合は他の方 にお願いして下さい。 本機の動作がペースメーカー、ICDに 影響を与えることがあります。</p>

<b>⚠ 警告</b>	
	<p>感電のおそれがあるので、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 雨中運転禁止。</li> <li>■ 給電ケーブルの被覆に傷やつぶれがある場合は危険ですので使用しないで下さい。</li> <li>■ 濡れた手で本機の操作や、給電コネクタ及びプラグの接続をしないで下さい。</li> </ul>
	<p>火災のおそれがあるので、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 給電中は、車両のマフラーは熱くなっていますので本機をマフラーの近くで使用しないで下さい。</li> </ul>
	<p>感電や火災のおそれがあるので、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ご自身での修理や改造はしないで下さい。</li> <li>■ 定期点検は販売店にお任せ下さい。</li> <li>■ 電気会社からの電気配線や、屋内配線には絶対に接続しないで下さい。</li> </ul>
	<p>事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。 給電コネクタの強制ロック解除の方法は、取扱説明書を参照のこと。</p>

## 2. 各部の名称



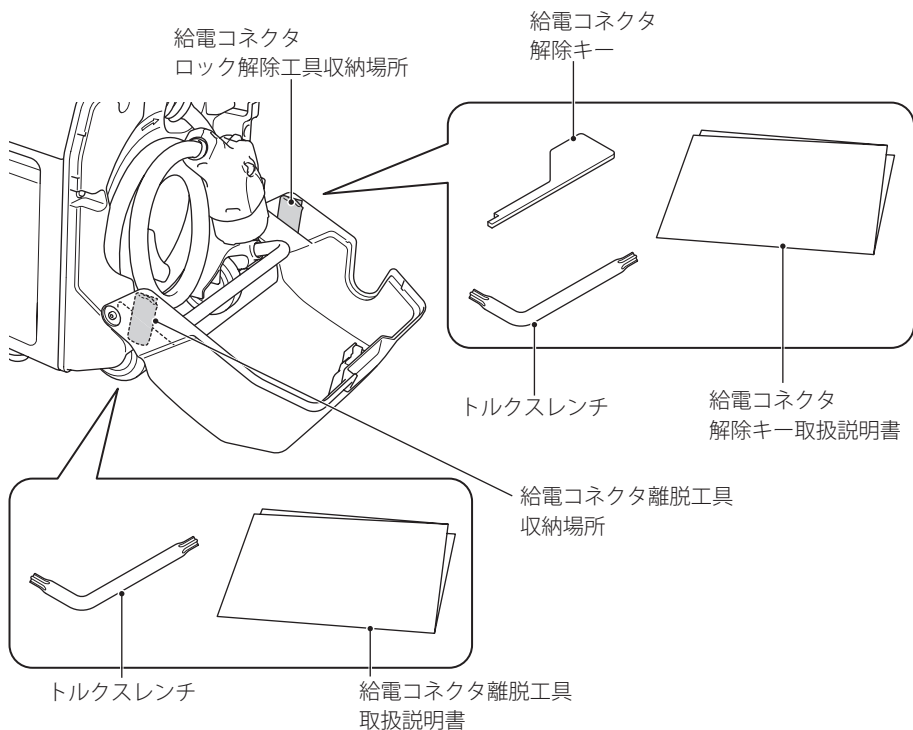
## 各部の名称

コネクタカバー内には、車両から給電コネクタが取り外せなくなった際にコネクタをロック解除する工具と、本機のホルダから給電コネクタが取り外せなくなった際にコネクタを離脱させる工具の2種類がビニール袋に入った状態で収納されています。

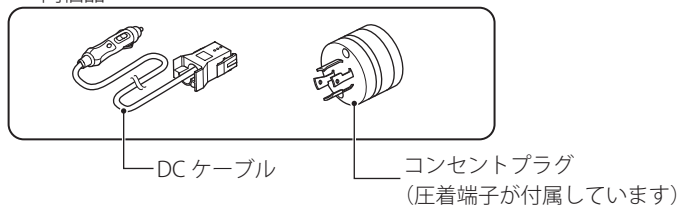
ビニール袋は工具を使用するまで開封しないでください。

本機を使用する前に、工具が入ったビニール袋が収納場所にあることを確認してください。

また、工具を使用した後はなくさないように元の場所に収納してください。



同梱品：

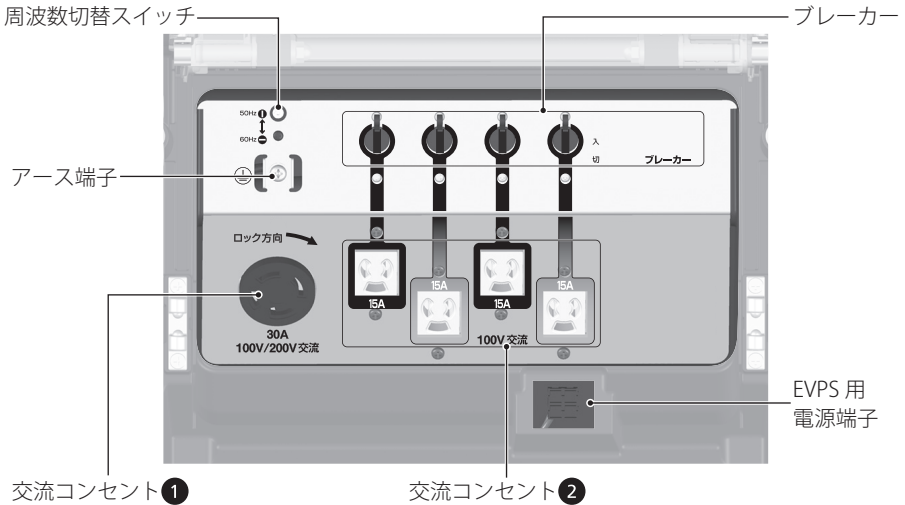




## コントロールパネル

## NOTICE

- 交流コンセント①と交流コンセント②の消費電力が合わせて 6,000 W (VA) を超えないように使用してください。
- 交流コンセント①から 6,000 W (VA) を取り出すときは、交流コンセント②からは電気を取り出さないでください。
- 同梱されているコンセントプラグの配線作業には専門の知識が必要ですので、配線作業は専門の電気業者にご相談ください。

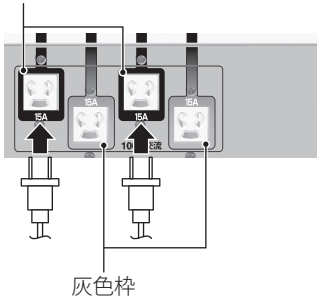


2つ以上の交流コンセント②を使用するときは、本機の負荷を分散するため、なるべく黒色枠のコンセント同士、または灰色枠のコンセント同士で使用してください。

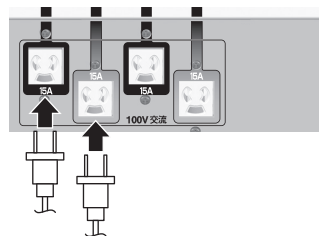
3つ以上の交流コンセント②を使用する場合は、お好みの場所からお使いください。

## 推奨する使いかた：

黒色枠



## 推奨しない使いかた：



## 各部の名称

### ■交流コンセント

交流コンセント	取り出し電気	使用可能プラグ例 (アース付きプラグ)
①	100 V 最大 30 A	パナソニック WF6430 (同梱品)
	200 V 最大 30 A	
②	100 V 最大 15 A ※ <sup>1</sup>	—

※ 1：コンセント 1 つあたりの上限

### ■ブレーカー

各ブレーカーの真下のコンセントが 15 A 以上通電されると作動し、回路を遮断します。再度通電する際は、レバーを上げてください。

### ■周波数切替スイッチ

出力周波数を切り替えます。

→周波数の切り替え (P.17)

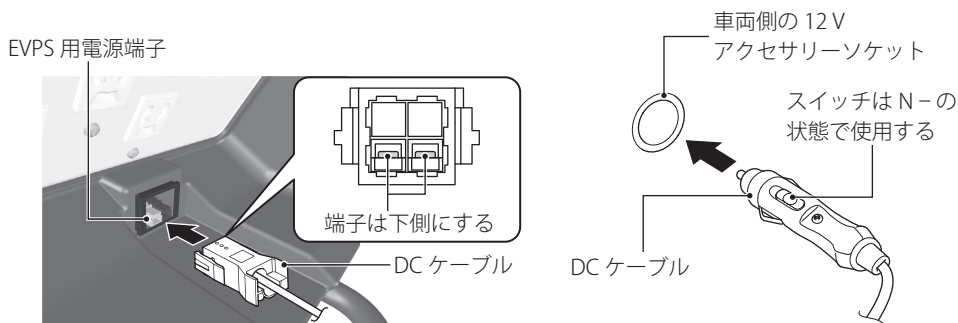
### ■アース端子

アース接続機器を使用する際は、アース線を接続します。

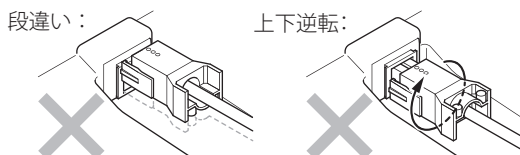
→アースの接続 (P.17)

### ■EVPS 用電源端子

本機と接続する車両によっては、同梱されている DC ケーブルを使用して本機の EVPS 用電源端子と車両側の 12V アクセサリーソケットを接続する必要があります。



下記のような、誤った接続をしないように注意してください。



## 外部給電とは

本機を車両につなぐことで、電気機器へ電気を供給することができます。

### ⚠ 注意

ペースメーカ（植込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）およびICD装着のお客様は、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、本機、給電ケーブルに近づかないでください。ペースメーカおよびICDの動作に影響を与えるおそれがあります。

本機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法、ご使用場所の各地方自治体の条例などに従ってください。

医療用電気機器を使用するときは、医療機器メーカー・医師・病院等に事前にご相談ください。

精密機器を使用するときは、他の電気機器の干渉がないことを確認してください。

### ■仕様

定格出力	6,000 W (VA)
定格出力電圧	AC 100/200 V
周波数（切り替え可能）	50/60 Hz

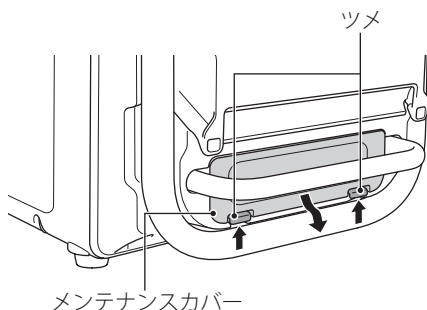
モーター等の起動電流の多い製品は種類によっては使用できない場合があります。詳しくは、販売元にご相談ください。

安定器の付いた放電タイプのランプ（水銀灯、メタルハライドランプなど）を消灯した場合、再点灯はランプが冷えるまで待ってから行ってください。本機や使用中の電気機器に不具合が発生するおそれがあります。

使用する電気機器の負荷によっては本機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。販売元にご相談ください。

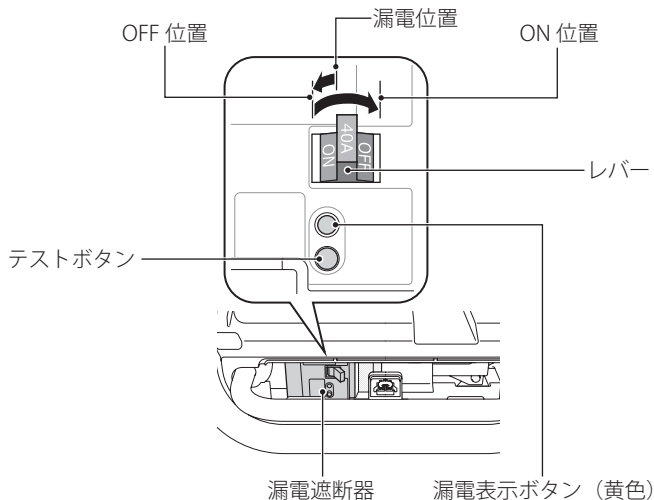
## 漏電遮断器

本機と接続している電気機器からの漏電を検知すると、漏電遮断器が作動し、電気機器への給電が停止されます。漏電遮断機は、ツメを上側に押しながらメンテナンスカバーを外して確認します。



漏電遮断器が作動したときは、レバーが ON と OFF の中間位置になり、漏電表示ボタン（黄色）が飛び出します。

レバーが中間位置または OFF 位置にある状態では給電することができません。通電するには、レバーを一度 OFF 位置にしてから ON 位置にします。

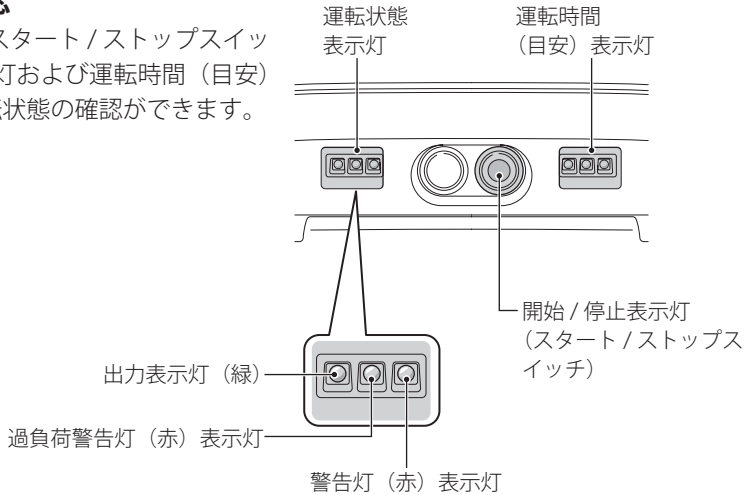


レバーを ON 位置に戻して通電させた後、再度漏電遮断器が作動する場合は、電気機器の絶縁不良が考えられます。電気機器を取り扱う電気店にご相談ください。どの電気機器に対しても動作する場合は、本機の絶縁不良が考えられますので、販売元にご相談ください。



車両と本機を接続し給電可能な状態で、月に 1 回テストボタンを押して、漏電遮断器が作動することを確認してください。

## 給電状態の確認

開始/停止表示灯(スタート/ストップスイッチ)、運転状態表示灯および運転時間(目安)表示灯で本機の運転状態の確認ができます。



## 運転状態表示灯

運転状態表示灯	状態	知識
 すべて消灯	出力停止中	出力停止状態では何も表示されません。
 出力表示灯が点灯	出力中	正常運転中に表示されます。

上記以外の表示については、異常の可能性があります。

→ 異常時の運転状態表示灯 (P.23)

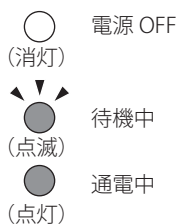
## 開始/停止表示灯（スタート/ストップスイッチ）

本機の給電状態を表します。

**電源 OFF**：消灯

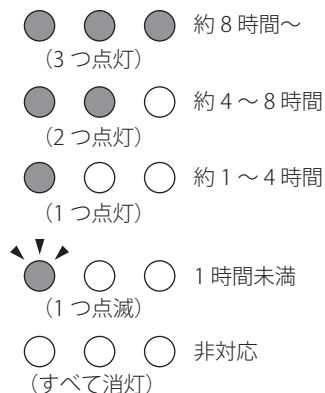
**待機中**：点滅

**通電中**：点灯



## 運転時間（目安）表示灯

電気の供給時間（目安）を表します。



電気の供給時間（目安）表示に対応していない車両は、表示灯がすべて消灯したままとなります。

運転時間（目安）表示灯が非対応の車両で給電する際には、給電残量が低下していないか車両側で確認してください。

## 本機の運搬

### ⚠ 注意

ケガの恐れがあるため、本機のキャリーハンドル、フロント/リアハンドル、取っ手以外の場所を持っての運搬はしないでください。

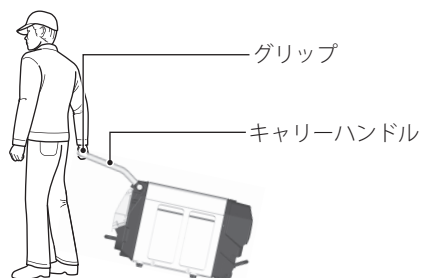
### NOTICE

本機が破損する恐れがあるため、下記の取扱いはしないでください。

- キャリーハンドルを持って本機を持ち上げること
- 凸凹のある路面または、石や砂利のある路面で、キャリーハンドルを使って運搬すること
- 本機を車両などに積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置すること
- 本機を車両などに積んだまま、長時間悪路を走行すること
- 本機の上に荷物などを載せること

### ■ キャリーハンドル

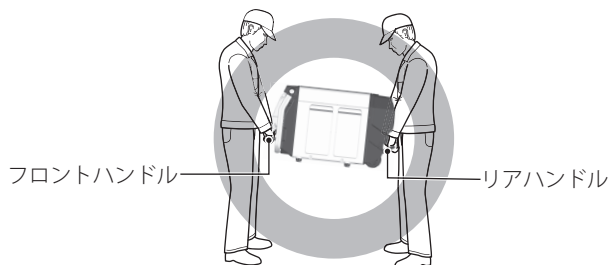
本機を移動するときに引き上げて使用します。使用しないときは、キャリーハンドルを下げてください。



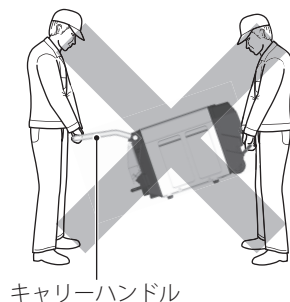
### ■ フロント/リアハンドル

本機を持ち上げるときは、フロントハンドルとリアハンドルを持ってください。

○：正しい持ちかた



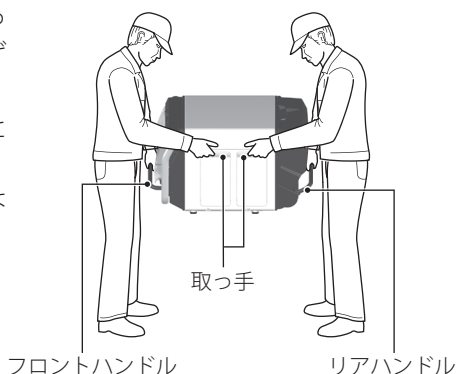
×：誤った持ちかた



## ■車両での運搬

車両に本機を載せるときは2人以上で持ち上げるようにしてください。  
 車両で運搬するときは、本機が動かないようにしっかり固定してください。

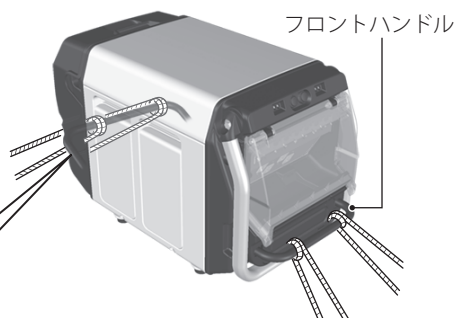
1. フロントハンドル（リアハンドル）と取っ手を持ち、腰の高さまで本機を持ち上げる。
2. 持ち上げた本機を車両の積載スペースに置く。  
 - 開口部が狭い車両に置く際は、傾けながら入れてから置いてください。



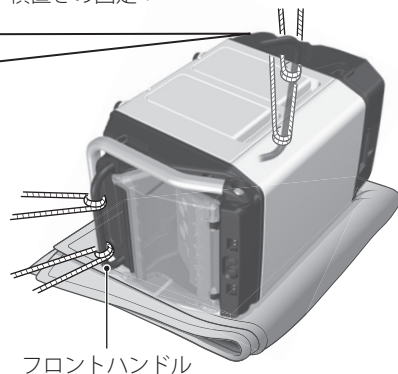
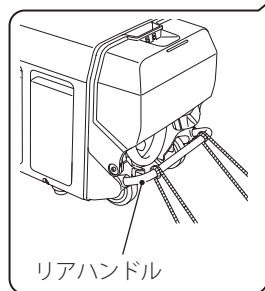
3. フロントハンドルとリアハンドルにロープ等をかけて、しっかり固定する。  
 - 積載場所のサイズ等で横置きするときは、接地面にマットなどの緩衝材を敷いてください。

### NOTICE

■硬いトランクルームに横置きで設置すると、本機の側面に傷が付く恐れがあります。



横置きの固定：





## 外部給電のしかた

### 本機の接続

#### ⚠ 警告

**プラグインハイブリッド車と接続したときには、下記に注意してください。**

給電中は、車両のマフラーが熱くなっているので、近くで本機を使用していると火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。  
本機は、車両のマフラーの近くで使用しないでください。

車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。  
換気の悪い場所は、酸素不足または有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

#### ⚠ 警告

**燃料電池車と接続したときには、下記に注意してください。**

車庫、倉庫、トンネル内などの換気の悪い場所では、本機を使用しないでください。  
燃料電池の発電により周囲の酸素が消費され酸素不足の危険があります。

車両および本機を地面の平らな場所に設置してください。  
本機を小石、土、砂利などの多い場所に置かないでください。  
外部給電を行う際は、解除工具が収納場所にあることを確認してください。  
→各部の名称 (P.6)

以下のときに、本機の保護のため、給電を停止することがあります。

- ・ 高温となる場所で使用したとき
- ・ 本機の吸気口及び排気口がふさがれているとき

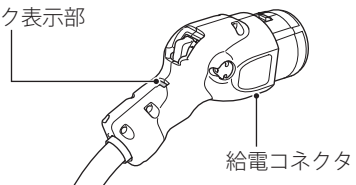
#### NOTICE

給電コネクタを取り扱う際は、落下させないように注意してください。  
給電コネクタに落下等の衝撃が加わると、給電コネクタのロック機能が作動することがあります。  
ロック機能が作動したまま本機のホルダに差し込むとホルダからコネクタが外れなくなります。

→ホルダからの給電コネクタ離脱とロック解除方法 (P.29)

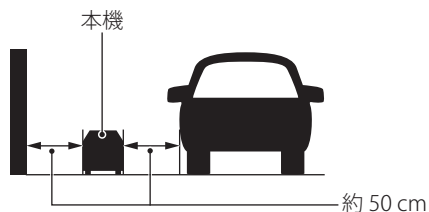
ロック機能の作動状態は給電コネクタの 電磁ロック表示部  
電磁ロック表示部で確認できます。

青：ロック状態  
銀色：ロック解除状態

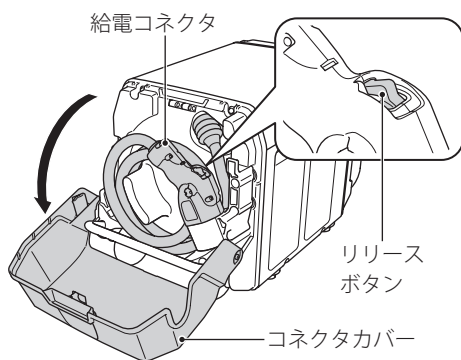


ロック機能は、本機の給電と停止の一連の操作をすることで解除できます。  
また給電コネクタがロック状態でも正常に車両と接続し、本機を使用することができます。

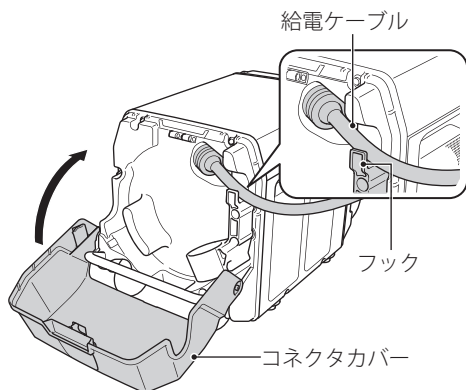
1. 本機を車両の給電口の下に置く。
  - 本機の吸気口および排気口をふさがないように置いてください。



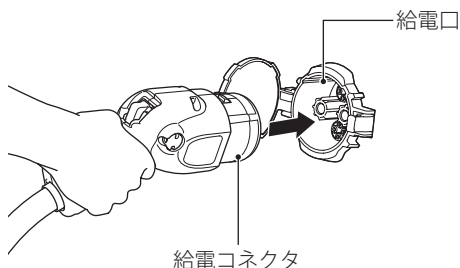
2. コネクタカバーを開ける。
3. リリースボタンを押しながら給電コネクタを取り外す。
  - リリースボタンを押しても取り外せない場合  
→ ホルダからの給電コネクタ離脱とロック解除方法 (P.29)



4. 給電ケーブルをフックに掛ける。
5. コネクタカバーを閉める。



6. 給電コネクタを車両の給電口に確実に挿し込む。
  - 車両によっては、DC ケーブルの接続も必要です。  
→ EVPS 用電源端子 (P.8)



## ■周波数の切り替え

スイッチを操作して周波数を切り替えます。

● : 50 Hz

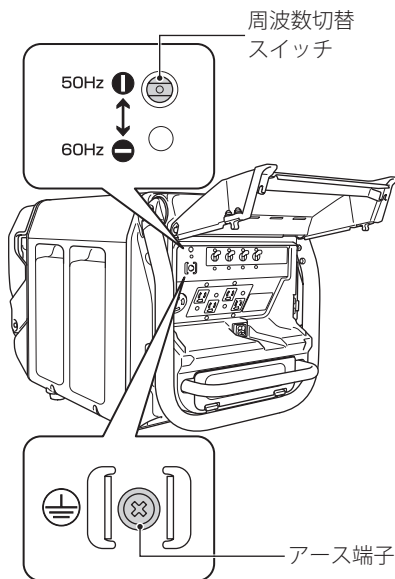
● : 60 Hz

- 給電を開始する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。

## ■アースの接続

本機に接続する電気機器が大地にアースされている場合は、本機も必ず大地にアースする必要があります。

- アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。アースに関するご不明点は、販売元にご相談ください。



電気の取り出しかた

**⚠ 注意**

使用する電気機器の電源を ON にしたまま、本機のコンセントへ接続しないでください。

電気機器の電源を ON にしていると、コンセントへ接続した際、電気機器が急に作動し、傷害を受けるおそれがあります。

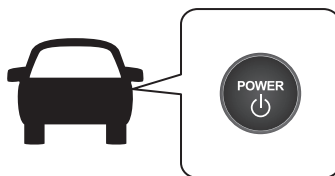
一部の自治体では、アイドリングストップに関する条例に抵触するおそれがあります。関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

接続する車両によっては、出力制限や、使用条件により、給電が停止することがあります。詳しくは車両の販売元にご相談ください。

**1. 車両を給電モードにする。**

- 接続する車両によっては、車両側での手順が異なります。

詳しくは車両の販売元にご相談ください。

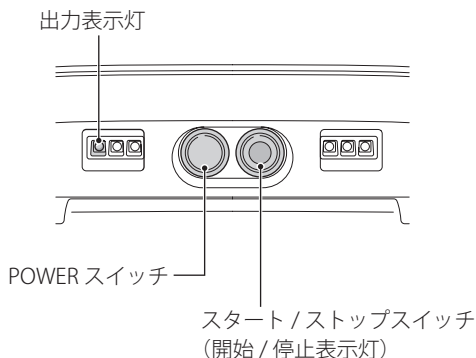


**2. POWER スイッチを 2 秒間押す。**

- 開始 / 停止表示灯（スタート / ストップスイッチ）が点滅します。

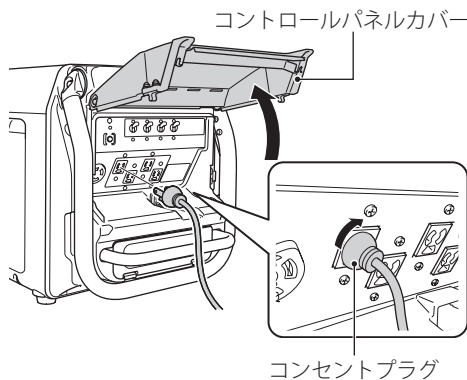
**3. スタート / ストップスイッチを押す。**

- 開始 / 停止表示灯（スタート / ストップスイッチ）が点滅から点灯に変わります。出力表示灯が点灯したら給電可能になります。



4. コントロールパネルカバーを持ち上げ、コンセントプラグを確実に差込む。

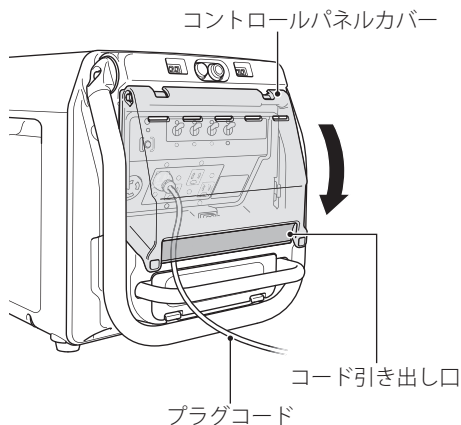
- コンセントに接続する前に電気機器の電源が OFF であることを確認してください。
- 接続するコンセントのブレーカーのレバーが上がっていることを確認してください。



5. コントロールパネルカバーを閉じる。

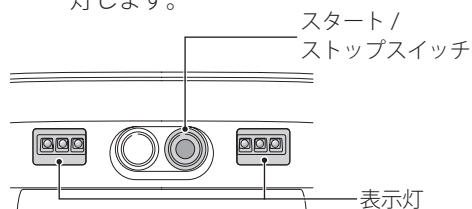
- コントロールパネルカバーのコード引き出し口から、電気機器のプラグコードを引き出してください。

6. 電気機器の電源を ON にする。

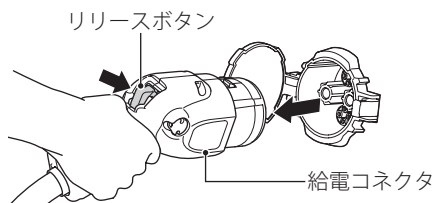


## 停止のしかた

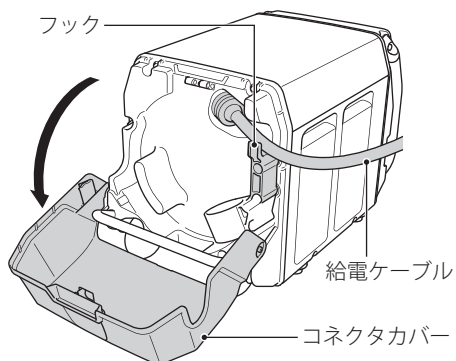
1. 電気機器の電源を OFF にして、コントロールパネルカバーを開けてコンセントプラグを取り外し、コントロールパネルカバーを閉じる。
2. スタート/ストップスイッチを押す。  
- 約 4 秒後に給電コネクタの電磁ロック表示部が銀色になり本機の表示灯がすべて消灯します。



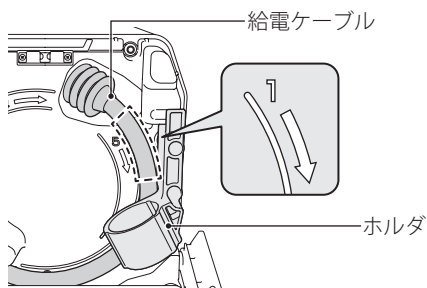
3. リリースボタンを押しながら、給電コネクタを車両の給電口から外す。



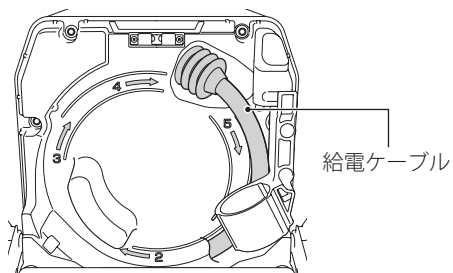
4. コネクタカバーを開ける。
5. 給電ケーブルをフックから外す。



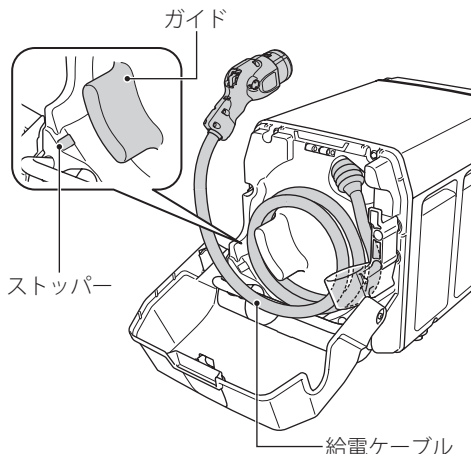
6. 給電ケーブルを矢印 1 の上に沿わせて、ホルダの裏に押し込む。



7. 給電ケーブルを矢印 2～5 の順に沿わせて巻きつける。



8. ガイドと白いストッパーの間に給電ケーブルを重ねて徐々に小さく 3 周巻きつける。



9. 給電コネクタをホルダの溝に合わせて確実に挿し込む。

#### NOTICE

給電コネクタをホルダに差し込む際は、給電コネクタの電磁ロック表示部が銀色になっていることを確認してください。

給電コネクタは落下等の衝撃によりコネクタロック機能が作動し、電磁ロック表示部が青色になることがあります。

ロック表示部が青色の場合はホルダに差し込む前に、本機の給電と停止の一連の操作を行い、ロック機能を解除してください。

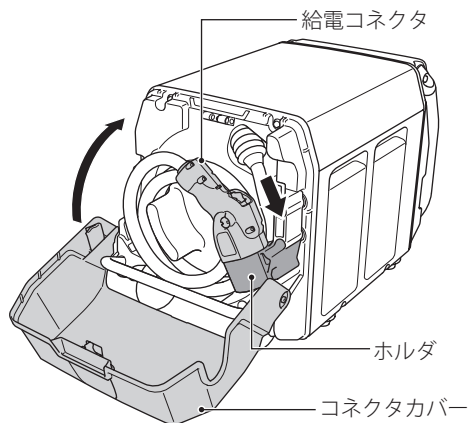
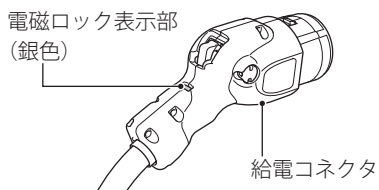
→外部給電の仕方 (P.15)

ロック機能を解除せずに給電コネクタをホルダに収納すると、ホルダから給電コネクタが外れなくなります。

→ホルダからの給電コネクタ離脱とロック解除方法 (P.29)

10. コネクタカバーを閉じる。

11. 車両の電源を OFF にする。  
- 車両の取扱説明書をご確認ください。



## 6. お手入れと保管

---

### ■本機を保管する際は、以下の状態を避けてください

- ・ 車内での保管
- ・ 直射日光が当たる場所や、屋外での保管
- ・ 高温多湿となる場所での保管
- ・ 塵やほこりがたまる場所での保管
- ・ 本機の上に物をのせた状態での保管

### ■本機が汚れたとき





- ・ 乾いた布で汚れをふき取ってください
  - 本機には水をかけないでください



## ■ 異常時の運転状態表示灯

運転状態表示灯	状態	対応方法
 <p>出力表示灯、 過負荷警告灯が点灯</p>	過負荷出力中※ <sup>1</sup>	<p>使用上限を超える電気機器を使用したときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各コンセントの取り出し電気の上限を確認してください。</li> </ul> <p>→ <b>コントロールパネル (P.7)</b></p>
 <p>出力表示灯が点灯、 過負荷警告灯が点滅</p>	車両側 12V 電源供給喪失	<p>運転中に車両側からの 12V 電源供給が喪失したときに表示されます。</p> <p>以下の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DC ケーブルが抜けているとき <ul style="list-style-type: none"> <li>- 車両側の 12V アクセサリーソケットから DC ケーブルが抜けていないか確認してください。</li> <li>- 本機の EVPS 用端子から DC ケーブルが抜けていないか確認してください。</li> </ul> </li> <li>• DC ケーブルが断線しているとき <p>→ <b>給電コネクタが外せないときは (P.26)</b></p> </li> <li>• 車両側の 12V バッテリー保護制御が作動し、12V アクセサリーソケットの給電が停止されているとき <ul style="list-style-type: none"> <li>- 車両側の電源を ON にしてください。</li> </ul> </li> </ul> <p>詳細な対応方法は「12V 電源供給喪失時の対応」を参照してください。</p> <p>→ <b>12V 電源供給喪失時の対応 (P.25)</b></p> <p>それでも再開できないときは販売元にご相談ください。</p>

※ 1：モーターなどの大きな起動電力を必要とする電気機器を使用した場合、一時的に出力表示灯と過負荷警告灯が同時に点灯する場合があります。

運転状態表示灯	状態	対応方法
 <p>過負荷警告灯が点灯</p>	過負荷停止	<p>以下の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用上限を超える電気機器を使用したとき                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各コンセントの取り出し電気の上限を確認してください。</li> <li>→ <b>コントロールパネル (P.7)</b></li> </ul> </li> <li>・ 本機の温度が異常に高くなったとき                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 吸気口、排気口が物でふさがっていたり、ゴミ詰まりがないか確認してください。</li> </ul> </li> <li>・ 給電コネクタが正しく接続されていないとき                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 給電コネクタの接続を確認し、再度給電開始操作をおこなってください。</li> <li>→ <b>本機の接続 (P.15)</b></li> </ul> </li> <li>・ 使用している電気機器に異常があったとき                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- ただちに電気機器の使用を中止してください。</li> </ul> </li> </ul>
 <p>過負荷警告灯が点滅</p>	車両異常停止	<p>車両側の異常により、給電が停止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 車両のシフトポジションが <b>P</b> に入っているか確認してください。</li> <li>- 一度、車両および本機の電源を切り、給電コネクタを接続しなおしてください。</li> </ul> <p>それでも再開できないときは車両の販売元にご相談ください。</p>
 <p>警告灯が点灯</p>	本機故障	<p>本機が故障している可能性があります。</p> <p>ただちに使用を中止し、販売元にご相談ください。</p>
 <p>警告灯が点滅</p>	車両故障	<p>車両が故障している可能性があります。</p> <p>ただちに使用を中止し、車両の販売元にご相談ください。</p>

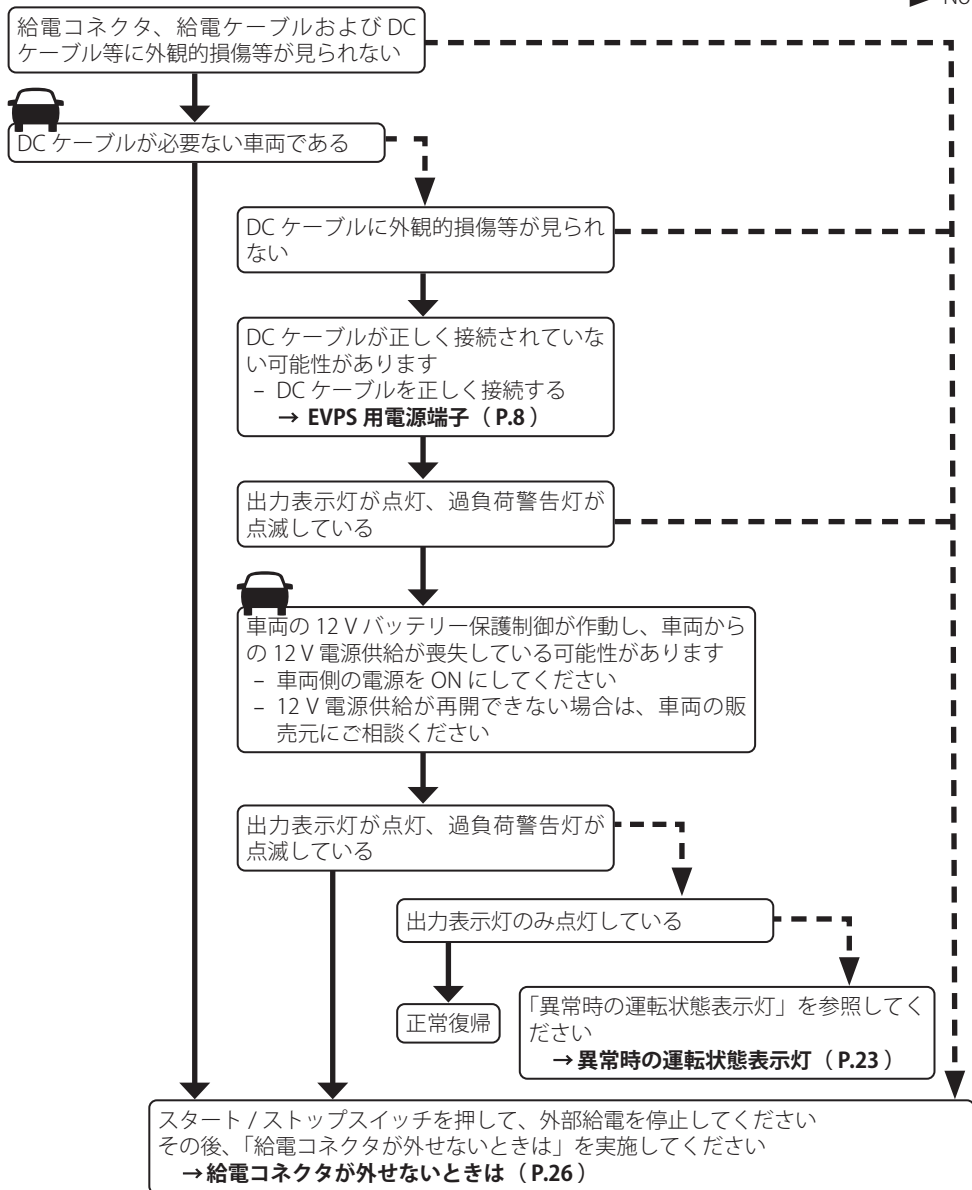
## 12V電源供給喪失時の対応

次のとおり対応をしてください。

それでも電源が供給されないときは、「給電コネクタが外せないときは」を実施してください。

→ 給電コネクタが外せないときは (P.26)

→ Yes  
- → No

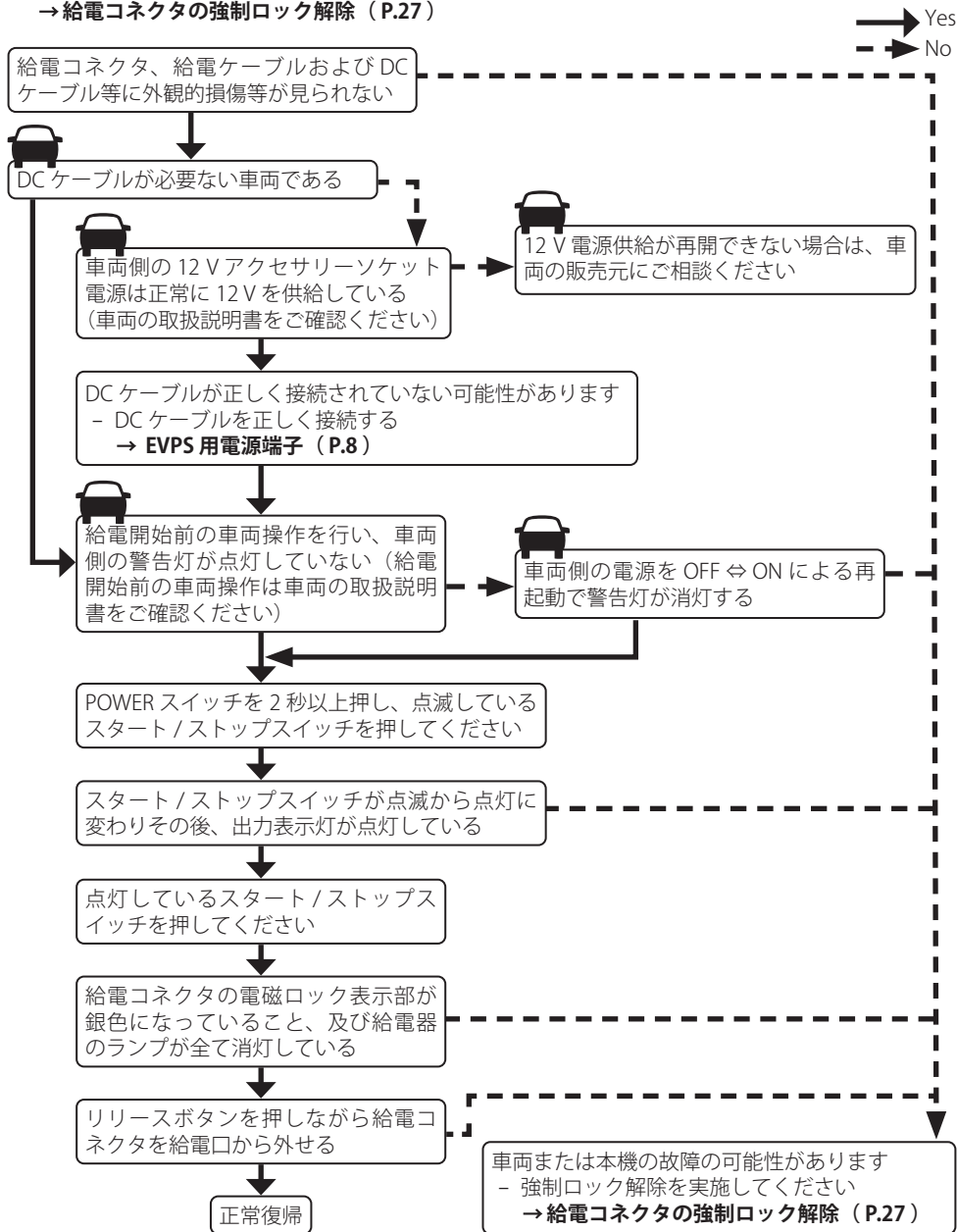


**給電コネクタが外せないときは**

次のとおり対応をしてください。

それでも給電コネクタが取り外せないときは、強制ロック解除を行ってください。

→ 給電コネクタの強制ロック解除 (P.27)



**■ 給電コネクタの強制ロック解除**

給電コネクタ解除キーを用いて強制ロック解除を行った場合、本機は使用不可となり、給電コネクタの復帰作業もしくは交換が必要です。復帰は専門のメンテナンス員による「点検と復帰作業」が必要となります。販売元へご相談ください。

強制ロック解除を行うときは本機の通電が停止していることを確認してください。

**→ 給電状態の確認 (P.11)**

給電コネクタの周囲に、給電コネクタの解除を妨げるような異物が無いことを確認してください。

給電コネクタの表面が凍結していないことを確認してください。

給電コネクタのリリースボタン等が凍結している場合は、給電コネクタは解除できません。

給電コネクタが濡れていないことを確認してください。

給電コネクタが濡れている場合は、乾いた布で給電コネクタを拭いてください。

濡れた手で、作業を行わないようにしてください。

雨、雪の場合は、給電コネクタが雨や雪で濡れないように作業を行ってください。

給電コネクタ解除キーを使用した場合は、本機の使用を中止し、販売元にご相談ください。

給電コネクタのリリースボタンを押しても車両から外せなくなった場合は、同梱の給電コネクタ解除キーを使用して給電コネクタを車両から外します。

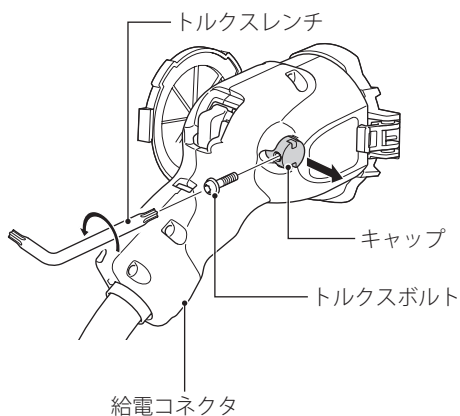
**→ 各部の名称 (P.6)**

コネクタカバーに下記3点が収納されています。

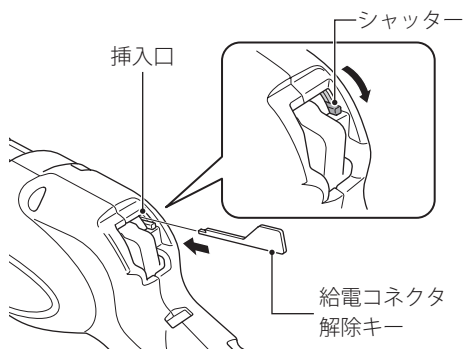
- ・ 給電コネクタ解除キー
- ・ トルクスレンチ
- ・ 給電コネクタ解除キー取扱説明書

使用の際は給電コネクタ解除キー取扱説明書をよく読み、同梱物がそろっていることを確認して下さい。

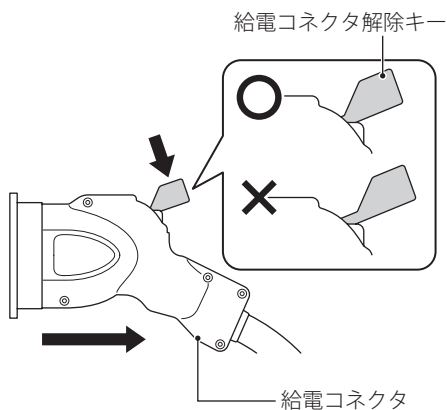
1. 車両と本機の電源が OFF になっていることを確認する。
2. 付属のトルクスレンチでトルクスボルト (1箇所) を外す。
  - その他のボルトは外さないでください。
  - ボルトの紛失にご注意ください。
3. キャップをずらす。
  - 給電コネクタからは完全に外れません。



4. シャッターを押し下げる。
5. 挿入口に給電コネクタ解除キーを奥に突き当たるまで挿入する。



6. 給電コネクタ解除キーを押し下げながら、給電コネクタをゆっくり車両から外す。
  - 給電コネクタ解除キーが×の状態の場合は、2～5までの作業を確認してください。
7. 給電コネクタ解除キーを用いて強制ロック解除を行った場合、「点検と復帰作業」が必要となります。販売元へご相談ください。



## ■ホルダからの給電コネクタ離脱とロック解除方法

給電コネクタに落下等の衝撃が加わると、給電コネクタのロック機能が作動する場合があります。

給電コネクタロック機能が作動したまま、コネクタをホルダに差し込むとホルダから抜けなくなります。

給電コネクタのリリースボタンを押しても、ホルダからコネクタが抜けなくなった場合は、同梱の給電コネクタ離脱工具を使用してコネクタをホルダから取り外してください。

### →各部の名称 (P.6)

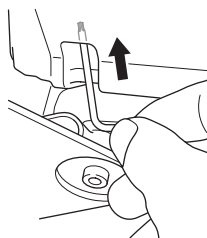
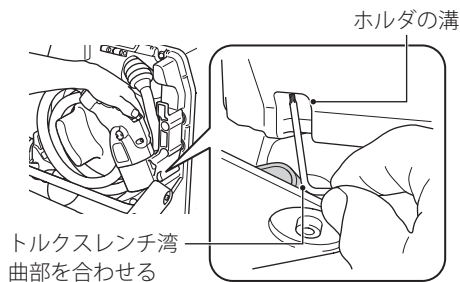
コネクタカバーに下記2点が収納されています。

- ・トルクスレンチ
- ・給電コネクタ離脱工具取扱説明書

使用の際は給電コネクタ離脱工具取扱説明書をよく読み、同梱物がそろっていることを確認して下さい。

1. 本機の電源が OFF になっていることを確認する。
2. トルクスレンチをホルダの溝に挿入する。
3. トルクスレンチをホルダの溝の中心部に押し込みながら給電コネクタを引き抜く。
4. 再度給電コネクタをホルダに挿入する前に、本機と車両を接続し給電開始と給電停止操作を行いコネクタのロックを解除する。

### →外部給電のしかた (P.15)



## 8. 主要諸元

### ■寸法、質量

全長 [キャリーハンドル持上げ時]	755 mm [996 mm]
全幅	387 mm
全高 [キャリーハンドル持上げ時]	438 mm [465 mm]
質量	41 kg

### ■型式、性能

呼称	EE60i	
型式	EBNJ	
電圧調整方式	PWM 方式	
相数	単相	
電力変換方式	DC-AC 変換方式 (インバータ方式)	
定格出力	交流	6,000 W (VA)
周波数	50/60 Hz	
定格交流	電圧	100/200 V
	電流	30 A [30 A x 2 (100 V 電源時)]
使用環境温度	-15 ~ 40 °C	

### ■給電コネクタ

コネクタ規格	CHAdEMO 2.0
給電ケーブル長	2.1 m







本機についてのお問い合わせ・ご相談は、  
販売元へご連絡ください。

**販売元**

**TEL**

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010 イイフレイアイオ

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00  
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本機に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- (1) 製品名
- (2) シリアルナンバー \_\_\_\_\_ (書込み欄)
- (3) ご購入年月日
- (4) 販売元名

# HONDA

EE60i  
30ZAR600  
00X30-ZAR-6000



© 2023 本田技研工業株式会社  
Printed in Japan